

(3) HPV検査

ヒトパピローマウイルス(HPV)は、成人女性の殆どが一度は感染するといわれるごくありふれたウイルスであり、感染しても多くは自然消滅する。高リスク型HPVの持続感染は子宮頸がんの原因となることがあるが、高リスク型HPVに感染しても子宮頸がんになるまでに長期間（平均約6～10数年）かかる為、定期的な検査は子宮頸がんの早期発見に有効である。細胞診と同時に採取した細胞を用いてHPV感染の有無を調べる検査である。

HPV陰性(-)の場合：現在は、HPVに感染していない。しかし今後、感染を引き起こすこともある為、細胞診で異常がない場合でも定期的な検診が有効。

HPV陽性(+)の場合：細胞診に異常がない場合も経過観察が必要。細胞診で変化や異常がある場合は要精密検査。

※HPV陽性であっても多くは免疫力で自然に消失するため、定期的な検査で持続感染していないかを調べることで、将来、子宮頸がんになるリスクの大小を確認できる。

① 1日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰性(-)	10	227	505	536	298	60	3	1,639	93.5
陽性(+)	2	29	35	24	20	4	0	114	6.5
受診者数	12	256	540	560	318	64	3	1,753	100.0
陽性率(%)	16.7	11.3	6.5	4.3	6.3	6.3	0.0	6.5	

② 2日人間ドック

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰性(-)	1	22	52	68	27	9	3	182	94.3
陽性(+)	0	2	5	3	1	0	0	11	5.7
受診者数	1	24	57	71	28	9	3	193	100.0
陽性率(%)	0.0	8.3	8.8	4.2	3.6	0.0	0.0	5.7	

③ 全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰性(-)	0	26	33	20	11	1	0	91	91.9
陽性(+)	0	3	4	0	1	0	0	8	8.1
受診者数	0	29	37	20	12	1	0	99	100.0
陽性率(%)	0.0	10.3	10.8	0.0	8.3	0.0	0.0	8.1	

④ 集団健診

	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	合計	比率(%)
陰性(-)	2	8	13	4	0	0	0	27	96.4
陽性(+)	0	0	0	1	0	0	0	1	3.6
受診者数	2	8	13	5	0	0	0	28	100.0
陽性率(%)	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	3.6	